



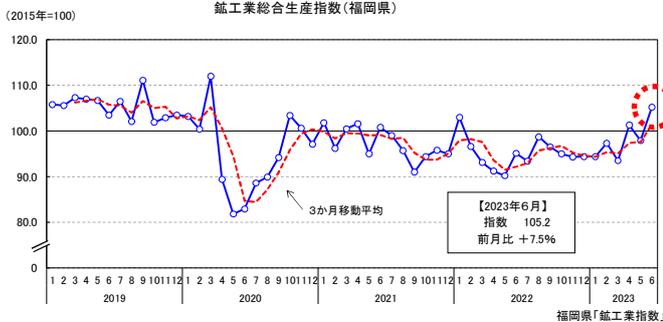
ふくおかの経済

令和5年8月号

生産

持ち直しの動きがみられる。

6月の生産指数は金属製品工業、化学工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りました。

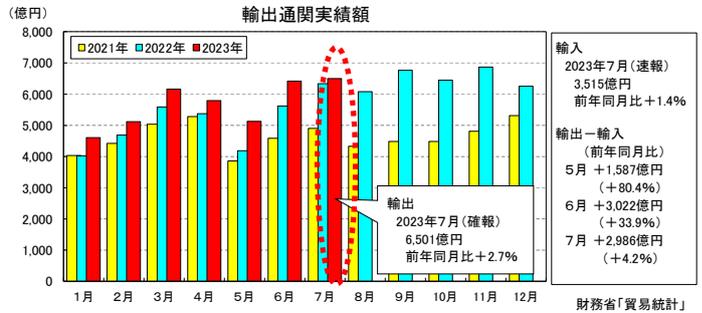


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

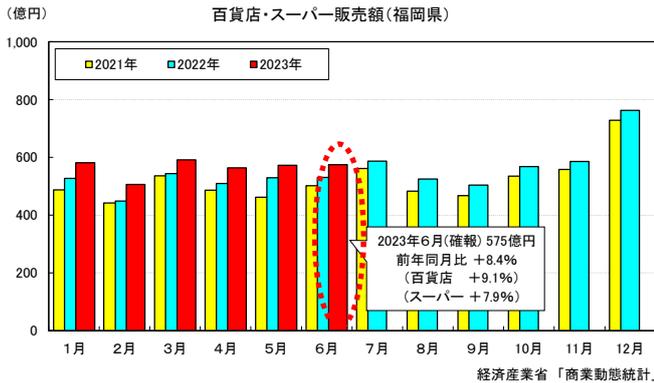
7月の輸出額は、前年同月比+2.7%、輸入額は同+1.4%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに回復している。

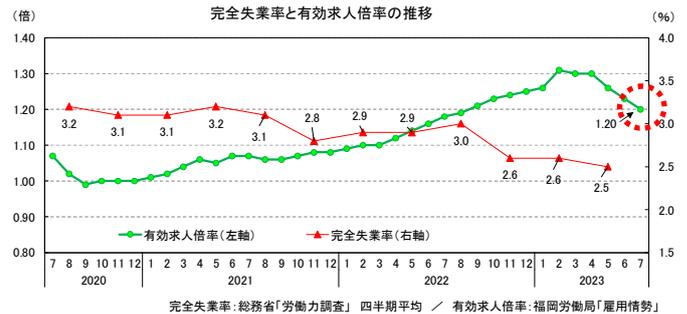
6月の百貨店・スーパー販売額は、21か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

7月の有効求人倍率は1.20倍で、前月を0.03ポイント下回ったものの、前年同月では0.02ポイント上回りました。



「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

今月のトピック 人口増加と経済成長を続けるインド～福岡県との関係～

- インドの人口は、今年、14億2,860万人となり、中国を超えたものと推計されています。さらに、経済規模を表すGDP(国内総生産)は、昨年、イギリスを抜いて世界5位となりました。2027年には日本やドイツを超えて第3位となるものと見込まれています。
- 福岡県からインドへの輸出額は、2022年に1,230億円と10年前の2012年(380億円)の3.2倍(全国2.2倍)、輸入額は405億円(同2.9倍、全国1.5倍)といずれも全国を上回る伸びを示しており、経済的な結びつきは強まってきていると言えます(図表1)。
- 県内における在留外国人数(インド)については、2020年、2021年と減少したものの2022年は2019年に次ぐ人数(538人)となっています(図表2)。
- 福岡県は、インド・デリー準州と2007年に友好協定を締結し、友好提携15周年を迎えました。また、天神中央公園では福岡在住のインドの方々によるイベント「ナマステ福岡」が、コロナ禍を除き毎年開催されるなど、官民間問わず、交流が進んでいます(図表3)。
- インドと友好提携している都道府県は、現在、福岡県と岡山県の2県に留まっており、すでに培われている繋がりを大切にし、さらに発展させていく必要がありそうです。

